

「読むこと」領域における授業実践例

- ① 学年・単元名 第3学年「ちいちゃんのかげおくり」
- ② 単元のねらい
 - ・動作や様子を表す言葉に気を付け、場面の様子や出来事など、場面を比べながら読み、感じたことを感想にまとめて交流することができる。
- ③ 指導の工夫
 - (1) 動作や様子を表す言葉を見つけるために、どのような言葉や文章に着目すればよいか、ポイントを整理していつでも閲覧できるように工夫した。
 - (2) 場面を比べながら読むことができるようにするために、毎時間の板書の写真を記録・掲載し、学習内容をふり返ったり、場面を比較したりして活用できるように資料を工夫した。
 - (3) 思C(1)オ「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。」を指導する際、児童がより多くの仲間の感想を読んで、交流できるようにするために、タブレットを使って全員の感想が読めるようにして、自分とは違う考え方に触れる機会を多くできるように工夫した。
- ④ 活用したツール
 - ・Google サイト
- ⑤ 実践内容
 - (1)について
 - (2)について

ちいちゃんのかげおくり ホーム 子どもの感想(3時) 子どもの感想(3時) 板書の写真(白紙) みんなの感想

登場人物のしたこと・言ったこと・様子を読む

- ちいちゃんは、よびました。(したこと)
- 「かげおくりって、なまに」(言ったこと)と、ちいちゃんもたずねました。(したこと)
- お兄ちゃんがころびました。(したこと)。ひどいけがです。(様子)

二つの場面をくらべる

二つの場面の同じ(にている)ところやちがうところをくらべながら読みましょう。

- 時(時間や季節)と場所
【れい】 朝→昼→夜 / 夏→冬 / 雨→晴れ など
→時間が進んでいる・かわっていることが分かる。それによって、主人公(中心人物)のまわりで起きたことを読むことができるようになる。
- 登場人物(主人公やまわりの人たち)
【れい】 第一場面 きつつき、野うさぎ - 第二場面 きつつき、野ねずみの家族 など
→登場人物がかわったことで、その人と主人公との間にどのような出来事が起こったかを読んでいくと、主人公の気持ちや様子が分かる。

◇読む視点を例示したり色を変えて注目しやすくしたり、いつでも見て使えるようにした。文学的文章だけでなく、説明的文章のサイトも作成し、どちらの学習でも活用できるようにした。サイトをコピーし、学習内容に合わせて加筆・修正した。

(2)について

第3時 第一場面のちいちゃんの気持ち

↓

第6時 第四場面のちいちゃんの気持ち

◇毎時間の板書を撮影し、サイト内のページにアップロードして閲覧できるようにした。撮影したその場でアップできるので、手間もかからず児童もすぐに見ることができる。

(3)について

◇全員分の感想をサイトのページに掲載し、誰のものでもすぐに読めるようにした。これまで、交換等しながらしかできなかった交流が、自分で相手を選択して読めるようになったことで、いろいろな考え方に触れる機会を増やすことができた。

⑥ 成果と課題(実践するときの留意点など)

- 感想の交流は一度にたくさんの作品を自分で選んで読むことができ、児童が主体的に学ぶ姿を生み出すことにつながった。
- サイトの作成にはある程度の労力が必要となり、使っている端末等の違いで教師が混乱し、負担が大きくなる可能性がある。このような課題から、どの単元でも作成することが難しい。